

大溝城フォーラムⅡ

大溝城の
歴史の変遷を
考える

- ▼日時 3月13日(日) 13時～17時
- ▼場所 ガリバーホール
- ▼内容
 - 報告 「分部家文書の紹介」 藤井 譲治氏 (京都大学大学院文学研究科 教授) (大溝地域周辺調査委員会 委員長)
 - 講演Ⅰ 「大溝城と織豊期の水城～琵琶湖岸の城郭と内湖めぐって～」 佐野 静代氏 (同志社大学文学部 准教授) (大溝地域周辺調査委員会 委員)
 - 講演Ⅱ 「織田・豊臣時代の大溝城」 中井 均氏 (NPO法人城郭遺産による街づくり協議会 理事長)
 - 公開討論会 「大溝城の歴史の変遷を考える」 司会 金田 章裕氏 (大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 機構長) (大溝地域周辺水辺景観保全検討委員会 委員長)
 - ・パネリスト 藤井 譲治氏・中井 均氏 佐野 静代氏・白井 忠雄 (高島歴史民俗資料館 参事)
- ▼定員 300人 (先着順)
- ▼参加費 500円 (資料代込)
- ▼受付 2月7日(月) から
- ▼申込方法 電話・ファックス・メール

● 文化財課
☎(32) 4467
FAX(32) 3568
✉bunkazai@city.takashima.shiga.jp

拡大版 拡大版・市長の手帳

タウン トピックス

子育て

安心安全

消費生活 省エネ

みんな 575

健康生活 元気生活

教育委員会

ひょういん だより

国保年金

暮らしの情報

図書館

窓口だより

歴史散歩

歴史散歩



▲総門(市指定文化財)

今回のフォーラムは、織田信澄が築いた大溝城や、分部氏が構えた陣屋などにスポットを当て、地域の魅力を掘り起こしながら大溝地域の歴史の変遷を考えます。

大溝城は、天下統一を目指す織田信長が安土に居城を構えたとき、その対岸にあたる高島郡支配の拠点と

して、天正6年(1578)に信長の甥である織田信澄によって築城されました。設計は、明智光秀と伝えられています。

信澄が築城した大溝城の全貌は、明らかではありませんが、現在、天守台跡と考えられる石垣が乙女ヶ池に隣接して残ることから、内湖を巧みに利用した水城であったと考えられ、琵琶湖の制海権の掌握を重要視して築城されたことが現在の姿からもうかがえます。

信澄の後、分部光信が大溝に移るまで、大溝城主は頻繁に交代します。そして、慶長8年(1603)に大溝城は取り壊され、その部材は水口岡山城に移されたと伝えられています。

元和5年(1619)に分部光信が伊勢上野から大溝に移り、大溝藩は廃藩置県まで約250年続きます。

す。光信は、初代大溝藩主として高島郡内に32か村、野洲郡内に5か村、約2万石を領有し、信澄が築いた大溝城三ノ丸付近に陣屋を構え、城下の整備を進めていきました。

現在「郭内」と呼ばれるところがかつての武家屋敷で、周囲に塀を巡らせ総門、西門、南門を設けました。そして、背戸川、総門を境として、総門より南は武家屋敷、総門より北は町人町として区別しました。

また、城下には、生活と防火に備えた用排水とする水路を配するなど城下の整備に力を入れました。城下には、「長刀町」・「伊勢町」・「江戸屋町」・「船入町」・「職人町」・「紺屋町」・「蛸燭町」等々の町名が今も残っています。

大溝藩主分部侯の菩提寺は圓光禅寺で、分部家の大溝への転封にあたり、伊勢上野から大溝に迎え

られました。以来、今日まで400年にわたり、分部家歴代の御廟を守っています。

大溝地域の歴史の変遷を考えながら、大溝地域の魅力を再発見してみませんか。ぜひフォーラムにご参加ください。(文化財課)

編集者のつぶやき

今号の特集にも取り上げた、大河ドラマ「江～姫たちの戦国」がいよいよはじまりました。滋賀を舞台に描かれるお江の波乱の物語、毎週楽しみに見えています。市内では、大溝城が次女初の新婚生活を過ごした場所ともいわれゆかりの地とされています。残念ながら城は残っていませんが、石垣などの城跡や外堀だった乙女ヶ池があります。これを機会に、地元の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

(広報担当S)

発行/高島市 編集/政策部企画広報課

〒074-0001 高島市 新旭町北畑556番地
TEL 0740(24)8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
E-mail: info@city.takashima.shiga.jp